

令和7年度厚生労働省医薬局医薬安全対策課委託事業

「高齢者の医薬品適正使用推進事業に係るアウトカム創出調査一式」 最終報告

株式会社NTTデータ経営研究所

01

事業概要

事業の背景と目的

事業の背景

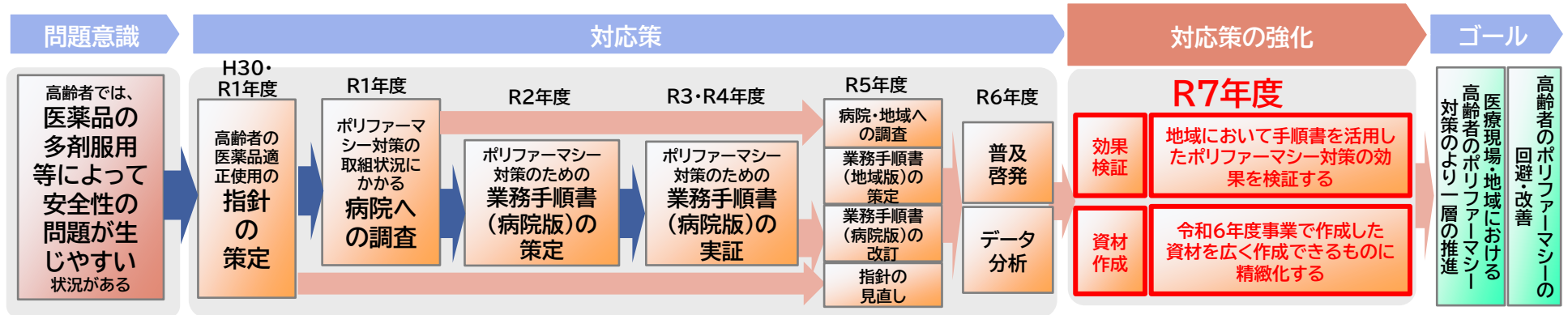
高齢化の進展に伴い、加齢による生理的な変化や複数の併存疾患を治療するための医薬品の多剤服用等によって、安全性の問題が生じやすい状況があることから、厚生労働省では、平成29年4月に「高齢者医薬品適正使用検討会」（以下「検討会」という。）を設置し、安全性確保に必要な事項の調査・検討を進めている。

同検討会では、高齢者の薬物療法の適正化（薬物有害事象の回避、服薬アドヒアランスの改善、過少医療の回避）を目指し、高齢者の特徴に配慮したより良い薬物療法を実践するための基本的留意事項として、平成30年5月に「高齢者の医薬品適正使用の指針（総論編）」、令和元年6月に「同指針（各論編 療養環境別）」を、令和2年度にポリファーマシー対策に関する業務手順書及び様式事例集として「病院における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方」（以下「病院版業務手順書等」という。）が作成された。これらの指針や業務手順書等は、令和3年度及び令和4年度の高齢者医薬品適正使用推進事業として病院や地域において試験的に活用し課題等の洗い出しを行った後、令和5年度に当該成果を踏まえた「地域における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方」（以下「地域版業務手順書等」という。）を新たに追加するなどの見直しが行われた。令和6年度は、新たに作成された地域版業務手順書を用いた、地域におけるポリファーマシー対策の実施環境整備を図るとともに、医療現場におけるポリファーマシー状況の改善を測るための指標の選定に係る調査・検討が進められた。

事業の目的

本調査ではポリファーマシー対策について一定の普及・啓発がなされた地域において、実務的な内容を含めたより一層のポリファーマシー対策業務の推進を図るとともに、令和6年度に得られた指標の検証を行い、より強固なポリファーマシー対策業務の効果に係るエビデンスの入手を目的とする。

加えて、医療従事者によるポリファーマシー対策が全国でこれまで以上に行われるよう、令和6年度に作成した普及啓発資材を更新し充実を図ることを目的とする。



調査検討会の委員名簿

委員

- 秋下 雅弘 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター 理事長兼センター長
岡本 充子 社会医療法人近森会 理事 統括看護部長 老人看護専門看護師
小島 太郎 国際医療福祉大学医学部 教授
社会福祉法人邦友会 成田老年医療福祉センター センター長
(兼任 東京大学大学院医学系研究科加齢医学老化制御学 講師)
- 野村 香織 公立大学法人福島県立医科大学先端臨床研究センター 准教授
橋場 元 公益社団法人日本薬剤師会 常務理事
浜田 将太 一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構研究部
担当部長
- 溝神 文博 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター薬剤部
長寿医療研修センター長寿医療研修部 高齢者薬学教育研修室長
- 美原 盤 公益社団法人全日本病院協会 副会長
宮川 政昭 公益社団法人日本医師会 常任理事
- 委員長 (計9名, 氏名五十音順 敬称略)

オブザーバー

国立長寿医療研究センター長寿医療研修部高齢者薬学教育研修室

特任研究員 田口 怜奈

(敬称略)

第1回調査検討会

- ・開催日程 令和7年6月19日（木）17：00－19：00
- ・検討内容 事業概要の説明、地域における業務手順書の運用調査にかかる検討、ポリファーマシー対策の普及啓発資材にかかる検討

第2回調査検討会

- ・開催日程 令和7年12月1日（月）18：00－20：00
- ・検討内容 地域における業務手順書の運用調査にかかる検討の中間報告、ポリファーマシー対策の普及啓発資材にかかる検討の中間報告

第3回調査検討会

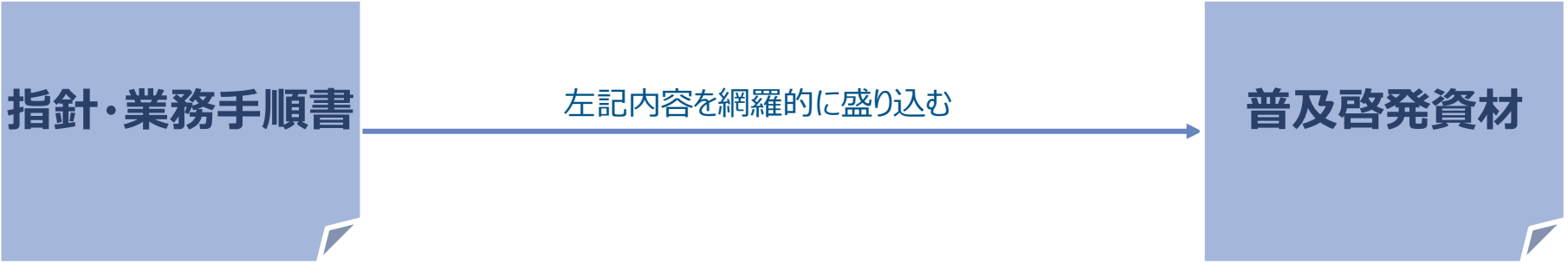
- ・開催日程 令和8年3月11日（水）13：00－15：00
- ・検討内容 地域における業務手順書の運用調査にかかる検討の報告、ポリファーマシー対策の普及啓発資材にかかる検討の報告、報告書のとりまとめ

実施業務の概要

業務1 地域における業務手順書の運用調査



業務2 ポリファーマシー対策の普及啓発資材の作成



02

地域における業務手順書の運用調査

地域における業務手順書の運用調査の実施結果

本調査は、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター薬剤部 長寿医療研修センター長寿医療研修部 高齢者薬学教育研修室の溝神室長、田口特任研究員が担当した。

作成した報告書の目次は以下の通り。

成果物「薬剤調整支援者によるポリファーマシー対策に関する事業・研究 報告書」の目次

1. 背景・目的
 - 1.背景
 - 2 目的
2. 研究方法
 - ①入院患者を対象とした薬剤調整支援者によるポリファーマシー対策の実施状況と影響の検討
 - ②薬局来局患者を対象とした薬剤調整支援者によるポリファーマシー対策の実施状況と影響の検討
3. 研究結果および考察
 - ①入院患者を対象とした薬剤調整支援者によるポリファーマシー対策の実施状況と影響の検討入院患者を対象とした検討
 - ②薬局来局患者を対象とした薬剤調整支援者によるポリファーマシー対策の実施状況と影響の検討
4. 結論
5. 謝辞・調査協力施設一覧

03

ポリファーマシー対策の普及啓発資材の作成にかかる検討

1 普及啓発資材の目的等

①目的

ポリファーマシー対策の考え方・取り組み方をこれまで以上に普及啓発するため、以下に示す資料の概要を盛り込む普及啓発資材を作成することを目的とした。

- ・ 高齢者の医薬品適正使用の指針 総論編
- ・ 高齢者の医薬品適正使用の指針 各論編（療養環境別）
- ・ 病院における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方
- ・ 地域における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方

②使用者の想定

主な利用対象は医師、歯科医師、薬剤師とし、看護師等の多職種も対象とする。

③使用場面の想定

主に地域・病院等でポリファーマシー対策を始めるにあたり、指針や業務手順書の内容を医療従事者に説明・講演する際

④形式

パワーポイント形式

2 普及啓発資材の作成方針

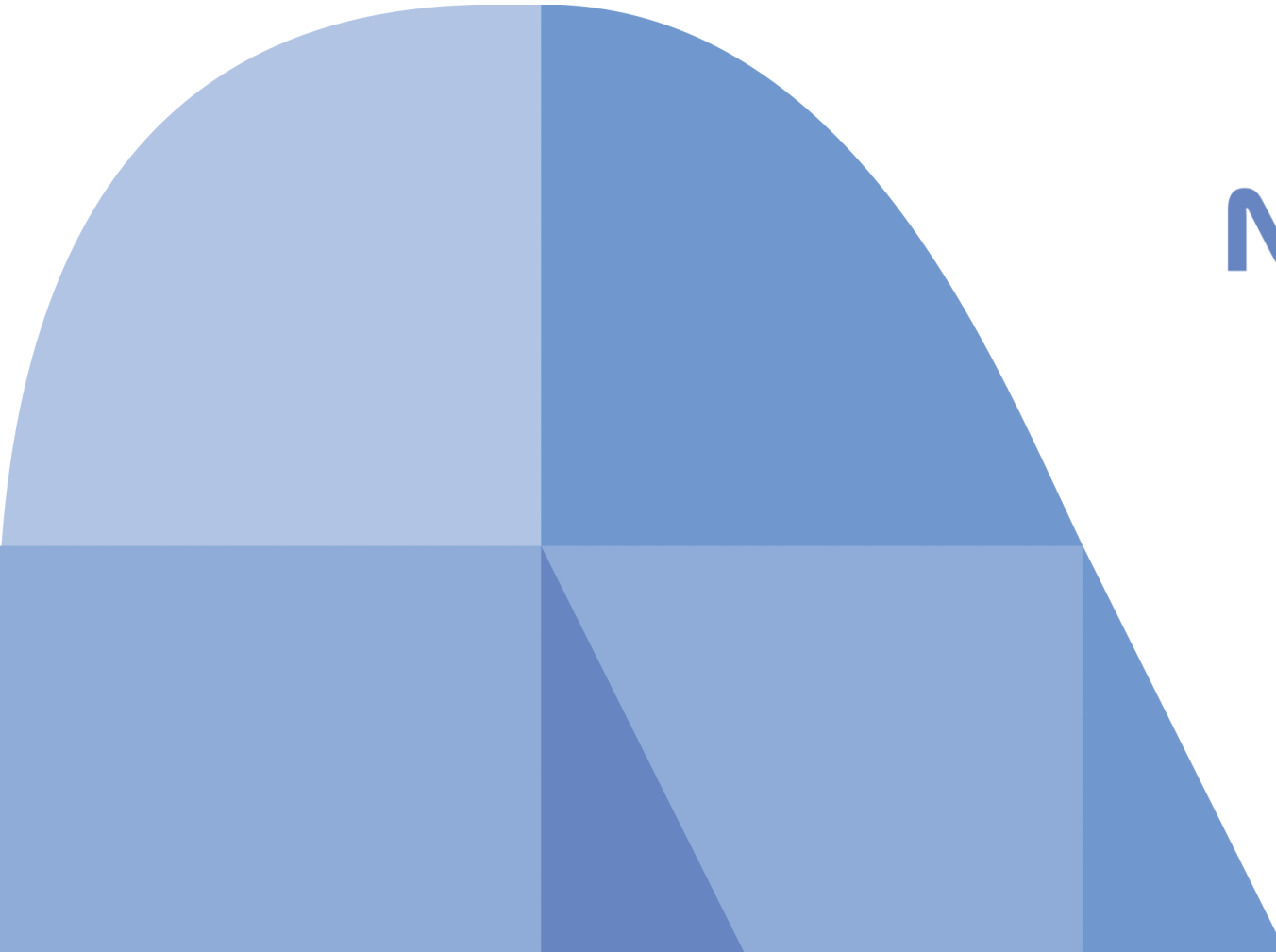
ポリファーマシー対策にまだ取り組んでいない医療従事者や、これから本格的に取り組む医療従事者が活用することを想定し、分かりやすくすること、事実誤認を防ぐこと、資材の活用場面に応じて使用できるようにすることなどを目的とし、以下の方針で作成した。

- ・ 文字数をできるだけ少なくする
- ・ イラストを多用する
- ・ 指針や業務手順書の内容をできるだけ直接的に引用する
- ・ スライド単位で抜粋して使用することを想定する

3 普及啓発資材の作成結果

以下の各資料について1種類ずつ、計4種類の普及啓発資材を作成した。

- ・ 高齢者の医薬品適正使用の指針 総論編 (参考資料1 - 2 参照)
- ・ 高齢者の医薬品適正使用の指針 各論編 (療養環境別) (参考資料1 - 3 参照)
- ・ 病院における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方 (参考資料1 - 4 参照)
- ・ 地域における高齢者のポリファーマシー対策の始め方と進め方 (参考資料1 - 5 参照)



NTT DATA
Trusted Global Innovator